

# 奏石 かなでいし

天然石洗い出しセット

**奏石**  
かなでいし  
1 m<sup>2</sup>セット

## 施工要領書

はじめに、施工に当たりましては本施工要領書をよくお読み頂いてから正しく施工を行ってください。

### セット仕様・梱包内容



専用種石

専用モルタル

専用下塗材

[仕様]

商品名		塗り厚	混水量	施工面積
<b>奏石</b> かなでいし	専用下塗材	約1mm	約400cc/袋	約1m <sup>2</sup>
	専用モルタル+専用種石	約13mm	約3.2~3.6ℓ/袋	約1m <sup>2</sup>

[梱包内容] 1セット専用ケース入りです。

専用モルタル	1袋
専用種石	1袋
専用下塗材	1袋
施工要領書	1部
(セット重量 約30kg/セット)	

### 使用工具



- ・ハンドミキサー
- ・計量カップ
- ・ネリバケツ (20ℓ)
- ・各種コテ
- ・養生シート
- ・スタイロフォーム (足場用)
- ・スポンジ (30cm角程度)
- ・スポンジ洗い用バケツ
- ・ゴム手袋
- ・各種ハケ

### 練り混ぜ

専用下塗材の混練り	上塗材 (専用モルタルと専用種石) の混練り
<p>① 水道水 約400cc → ② 下地モルタル 1袋</p> <p>①水道水(規定量)→②下塗材の順番でネリバケツに入れてハンドミキサーでダマがなくなるまでよく混練りしてください。</p>	<p>① 水道水 約3.2~3.6ℓ → ② 専用モルタル 1袋 → ③ 専用種石 1袋</p> <p>①水道水(規定量)→②専用モルタルの順番でネリバケツに入れてハンドミキサーでダマがなくなるまでよく混練りします。その後に③専用種石を加えて十分よく混練りしてください。</p> <p>※規定水量範囲内で適度なかたさに練ってください。 ※材料の練り足しはしないで下さい。 ※練り直しをする場合には、水を足さないで下さい。</p>

### 【使用・施工上の御注意】

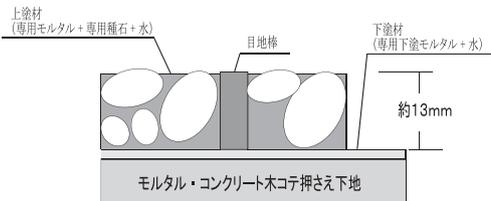
- ①モルタル・コンクリート下地は、木コテで仕上げてください。
- ②下地の埃や泥・レイトランスなどは事前にブラシ・高圧洗浄機などで入念に除去してください。
- ③気温が5℃以下での作業は行わないで下さい。
- ④ **奏石** かなでいし には、他の材料の配合は厳禁です。
- ⑤直射日光を避けて日よけシートなどで日陰を作って施工してください。
- ⑥材料が高温にならない様に御注意下さい。
- ⑦下地が焼けて熱い場合には、十分な水打ちを行い、下地の温度を下げから施工してください。

## 【施工前の注意事項】

- ・下地の埃や油・土などの汚れは、ブラシ高圧洗浄機などで除去してください。
- ・下地の不陸（凹凸）、欠損部、クラックなどの不良下地は予め平滑に補修してください。
- ・冬季などの使用で気温が5℃以下の時や凍結が予想される場合には施工を中止してください。
- ・日射が強い場合には、直射日光を避けて日よけシートなどで日陰を作って施工を行なってください。
- ・下地が熱くなっている場合には十分に水打ちを行い、下地の温度を下げてから施工してください。

## 【参考施工断面図】

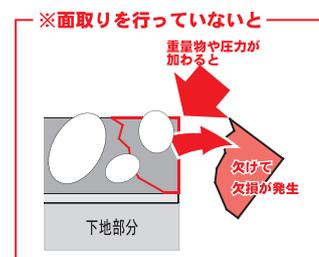
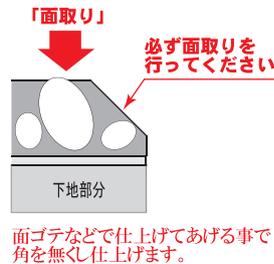
※適用下地は、モルタル・コンクリート木コテ押さえです。



※目地は適当な間隔で設置してください。  
(目安：約5m毎)

## 【端部出隅部分の施工注意点】

奏石 かなでいし が端部出隅となる場合には、脆く欠けやすい性質が有ります。必ず「面取り」を行ってください。



## ■ 施工手順

### ① 下塗材塗布



モルタル・コンクリート下地に適度な水湿しをしてから下塗材を約1mmの厚さでコテ塗りします。  
※下塗材は、必ず乾燥させてください。

### ② 塗付け



上塗材を定規などをを使用して規定厚に塗付けてください。

### ③ 水打ち・コテならし



必ず水打ちをして仕上コテでアマを浮かしながら、巣穴が無いように均します。  
この時、種石の頭を揃えるようになります。

おっかけ

### ④ 水打ちアマ戻し・アマ取り



水打ちをしてアマをハケで戻します  
この時、余分なアマは取り除いてゆきます。

種石が転ばない程度に  
しるまでお待ち下さい。

直射日光や気温、風の影響  
などで材料のしまり具合が変化  
します。

表面を指で軽くなぞってみて種石が転ばないしっかりした硬化具合をみはからってください。

表層が適度にしるまで  
お待ち下さい。

直射日光や気温、風の影響  
などで材料のしまり具合が変化  
します。

### ⑤ 拭き取り



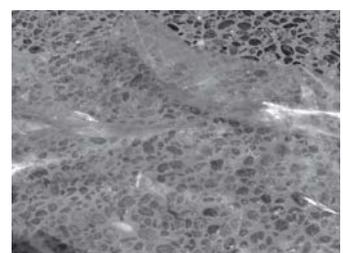
スポンジにキレイな水を含ませ石の上のアマを完全にふき取り仕上げてください。  
※アマが少しでも残ると白く焼きつきます。

### ⑥ から拭き



目地の硬化（爪で跡が付かなくなった状態）を確認してからキレイな布で表面をから拭き最終の仕上げを行います。

### ⑦ 養生



降雨などが予想される場合など必要に応じて養生シートなどで施工面を養生します。